



注意
本欄は讀者諸氏の利用に提供す、治安と風俗とを害し又は人身攻撃に涉らざる限り奇想天外的の寄稿を望む、一文は四百字位にて取捨は編輯子に一任、原稿は道路の改良編輯部宛のこと。

菅健次郎氏は道路改良意見を轉向せられたか

最近の時事新報に四回に亘りて「ソヴィエトの自動車列車」と題し鐵道省運輸局自動車課長菅健次郎氏は其の該博な智識と職務に忠實なる強力と細心な注意力とを傾注しての一文を公にせられた、何時もながら同氏の熱力と智力とに感服させらる、今や鐵道省は一大疑獄の暗雲がたれ込めて居る裡にさすがは菅氏である、慄々這般の健筆を振はる、折あらば一面識でも賜はりたいと希ぶ心持をもちながら同氏の結論に眼

を馳せた、曰く『道なき道を走り地方運輸の實情に即し産業の助長、地方開發の任務を果すべく我等は精進せねばならぬ、運賃を至廉にして多額の運搬費を節約し生産物の價格をして都市市場價格に近接せしめねばならぬ、道路の改良は今日に於ける我が國の財政よりして大なる飛躍を期待する事は困難である。之に對して其方法は二つある、第一は道路格を昇上せしむる爲に橋梁の強度を増し曲線を緩和し、幅員不足ならば待避所を設けて一先づ我慢する事である、即ち最少の費用で最大の効果を擧ぐる事が先決である。次に道路に對する重壓を避ける爲に車輛數を増して一軸當りの重量を輕減し更にタイヤーの數を増して一平方糠當りの重量を更に輕減する事である、斯くすれば惡道路に於ても重量自動車が容易に運轉する事が出來道路に對する破壊力も少なくなる。此二つの方法によれば大量輸送も困難でなく運賃輕減も思ひ切つて出来る。民力の涵養と經濟經營の二つによつて年々道路の改良を計る事は困難でない。余はこの點に於て現行の法規に拘泥せず又現今の道路に拘泥せず眞に國家富強の具體的方法に腐心せねばならぬと思ふ。……余の征服的見地とは……道路と自動車と經營との三位一體論を説くものこの點に在る、道路を輕視せよとの論ではなく我が國の經濟力と財政上から

ら急激の變化を求めず民力涵養運賃負擔の輕減を説くに當つてその方法と手段とを述べたのである。』と述べて居る、此處に至つて僕は『道路の改良』第十八卷第四號一頁から一七頁に亘る沙留藻氏の『菅健次郎氏の道路の改良と省營自動車論或問』と題する一文を思ひ出した、其の質問に對し菅氏が公にした今回の一文はなんだか婉曲にそれとなく辯解したものではなかろうかと感ぜしめられた、若し菅氏が左様な意圖に基いて筆にしたものとすると沙留藻氏が『千葉縣知事から救濟を鐵道省に求めて來たのこと、道路法の規定を援用して其の適用に關し内務省吏僚を攻撃したこと、征服主義の對象は道路管理者乃至内務省土木局員等にあらざること、道路改良費の負擔を收支相償はざる省營自動車側に命ずるは恰當にあらずと云ふこと等の疑義』を提示したるに對して的外れの辯解としか思はれない、今春時事新報に記載された

意見が菅氏の眞意なるか夫れとも今同のものが偽裝的意見か萬一後者が眞意なりとすれば前者は曲筆舞文徒らに筆を弄んで多智多能を表現し爲めに其の眞意を迷宮に導きたるものと謂はざるを得ないものである、夫れが承認し難いものと思はるならば更により明かに、より率直に辯明せらるるのが菅氏の迫るべき途ではなかろうか。若し夫れ今回『ソヴィエトの自動車列車』なる一文を公にし以て『自己慰藉』の一方法としての事なればまた何をか言はんやである、だがさもなくして菅氏の意見が沙留藻氏の公開質問に依り急角度を以て轉向せられたものであろうか、夫れならば菅氏の立場としては今一段の勇氣を鼓し明朗な心構を以て吾々第三者をしてナル程と首肯せしむるに足るの意見を發表せらることが其の義務ではなかろうか、何にもソヴィエト自動車を空轉せしめなくとも國産で十分であると思ふ。(野牛生)

笑話か眞語か

第六十九回議會では豫算を初め重要問題

が盛り澤山に討議せられたが、笑話として

れば前者は曲筆舞文徒らに筆を弄んで多智多能を表現し爲めに其の眞意を迷宮に導きたるものと謂はざるを得ないものである、夫れは餘りに受け取り難いものがある。夫れは鐵道敷設法委員會で堀内代議士の質問中に

『菅自動車課長を別に攻撃致す譯でありますねが業者の集り其の他の席で、菅自動車

課長の言ふことに俺は柔道五段だ、俺は柔道の手で行くのだ、柔道の手には勝つ負け

スが負けるか此一點しかない、斯う云ふこ

とを能く仰せらる。斯様なことは無論笑話

の二つである、省營バスが勝つか民營バス

でありまして左様なことは心ある者は聞い

ても心配せないであります、やはり田舎

あたりの沟に手弱い業者の耳に入りますと

逆も柔道の一手では省營バスと競争しては

敵はぬと云つて、非常な脅威を感じて居る

業者もあるやうであります』と斯んなこと

が、堂々帝國議會で公然質問否笑話として紹介されたのであります。堀内代議士は心ある強者であるから、何にも一課長の笑話を紹介されなくともよいと傍聴者には考えられたが堀内代議士と菅自動車課長とを代表として肉體的實力で闘争せしめたなら菅民何れが勝つであらうか、君笑ひことぢやないぜと某代議士が筆者の肩をたすいた。

(新兵生)

水天鬚髮吳か越か

第一步 土木國策實行への

今度の議會は中々眞面目で近來に例のない好感を與へられた討議振りで、醜の醜なる泥仕合の見られなかつたことはまことに喜ばしいことである。夫れでも田舎で新聞を見ておると中々合點の行きかねることが少なくない。夫れは隱密政治の昔に還へず悪法などと批判を加へながらも不穢文書取締法案が審議された、其の委員會で政友會の代議士久山知之君の質問中に「陸相は怪

文書によつて一番被害を蒙つたのは軍だと云はれたが軍の統制が整然たれば怪文書などを入る餘地はあるまい」と言ふたのに對し寺内陸相の答辯は斯うである。「軍の統制が亂れて怪文書が出たのではない、肅軍は必ずやる」と久山氏は之れで自己の質問に對してビタリと答辯があつたと思はれたであらうか。(ワニビース生)

文書によつて一番被害を蒙つたのは軍だと云はれたが軍の統制が整然たれば怪文書などを入る餘地はあるまい」と言ふたのに對し寺内陸相の答辯は斯うである。「軍の統制が乱れて怪文書が出たのではない、肅軍は必ずやる」と久山氏は之れで自己の質問に對してビタリと答辯があつたと思はれたであらうか。(ワニビース生)

はどんなものかと考へると中々判らない。田舎勤めの身としてのなきなさが思はれた所が、土木局河川課長の武井群嗣さんが「確定したる土木費豫算」と題して河川關係、港灣關係、道路關係、災害對策關係及地方振興關係の五項に分ちて昭和十一年土費の概説を公表された(水利と土木第九卷第六號)。讀內務本省に於ての土木事業の全貌を知ることを得たので漸く國道改良の繼續も認められ、武井課長の所謂土木事業の平生化が出現し土木國策實行へのステ

ートが見られたと思はれ痛快に堪へない、幕が取り去られなければ實現は見られないかと失望と哀愁とを感じしめられたが、去る臨時議會では見事に土木豫算も修正削減

なしに協賛が與へられたので、ヤレ〜と胸を撫でおろしたが、さて昭和十一年度の土木關係の豫算はどうか、其の施行の事業

× × × × ×